

令和4年度 第4回三鷹市スポーツ推進審議会 会議要旨

開催日	令和5年2月17日（金曜日）	時間	15:30～17:00	
会場	三鷹市公会堂さんさん館4F 第4・5・6会議室 (オンライン併用)	傍聴人数	0人	
出席者	<p><会場参加>助友委員、吉田委員、國澤委員、苔口委員、安中委員、細川委員、岸川委員</p> <p><オンライン参加>相原委員、鈴木委員、高柳委員、寺田委員、五味川委員、屋敷委員、川瀬委員</p>			
欠席者	なし			
行政	大朝スポーツと文化部長、高松スポーツと文化部調整担当部長、平山スポーツ推進課長、福田スポーツ推進課主査			
内容	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 開会（事務局）</p> <p>(1) 委員出席状況について 委員の出席状況は、委員定数14人のうち14人（会場7人、オンライン7人）の出席により、委員の過半数が出席し、定足数に達していることから、本日のスポーツ推進審議会は有効に成立している。</p> <p>(2) 傍聴希望について 市民会議、審議会等の傍聴は、「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき、原則として公開している。本日は、現時点で傍聴の希望はないが、希望があった場合、条例に基づき入場いただく。</p> <p>(3) 会議録の作成と公開について 三鷹市の市民会議、審議会等では、会議録を要録として作成し、公開している。会議の内容を録音し、会議録の原案を出席委員に確認のうえ、市のホームページと総務部相談・情報課にて公開を行う。</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 令和4年度の東京2020大会等レガシー事業について レガシー方針（①健康都市づくりの推進、②子どもの感動体験、③障がい者スポーツ、④チリホストタウン事業、⑤新型コロナ対策の検証とオンライン等活用、⑥大学等との連携、みたかスポーツサポーターズ等の充実、⑦三鷹ゆかりのトップアスリート、プロチームの応援と連携）に基づき実施した令和4年度の東京2020大会等レガシー事業を説明</p> <p>ア 子ども感動体験など トライアスロン体験 トップアスリートバレーボール教室（初心者向け） トップアスリートバレーボール教室（経験者向け） 車いすバスケ体験</p> <p>イ 障がい者スポーツ 東京ボッチャ選手権</p>			

<p>内 容</p>	<p> ボッチャみたかカップ ふれあい乗馬体験 ボッチャ出前事業 パラ卓球普及事業 ウ チリホストタウン事業 チリ日本国交樹立 125 周年記念俳句交流プログラム ラテンアメリカ文化交流フェスティバル チリ料理給食提供 チリ料理教室 チリ文化紹介（三鷹国際交流フェスティバル） チリ日本国交樹立 125 周年記念式典 エ 大学等との連携、みたかスポーツサポーターズ等の充実 みたかスポーツサポーターズ交流会 ボランティア活動実績 オ 三鷹ゆかりのトップアスリート、プロチームの応援と連携 タグラグビー出前教室 タグラグビー交流大会 (2) 令和5年度の主な事業について ア 中学校における夜間照明設備LED化工事の実施 イ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等のレガシー事業の実施 ウ 心と体の健康都市づくりの推進 エ 大沢総合グラウンドの計画的な改修工事 オ 大沢野川グラウンドの利用再開に向けた取組 カ 井ログラウンド（仮称）等の整備に向けた設計 </p> <p> 吉田委員：オリンピックレガシーの事業ではないが、駅伝にはチリ大使館チームが招待チームとして参加しているので、チリ関連事業として忘れないでほしい。 </p> <p> 平山課長：継続して駅伝に参加してもらえるように、三鷹市としてもチリ大使館に働きかけていきたい。 </p> <p> 國澤委員：令和4年度に実施したボッチャ出前授業について、令和5年度は実施しないのか。 </p> <p> 平山課長：ボッチャ出前授業については、ボッチャが地域に一定程度普及し、認知度も上がったことを踏まえ、令和4年度で終了する。 </p> <p> 助友会長：なんとか続ける予定はないのか。 </p> <p> 平山課長：令和5年度予算自体は計上がない中で、他の事業との工夫での相談になってくる。 </p> <p> 鈴木委員：レガシー方針として「子どもの感動体験」の記載があるが、実際に事業を見てみると小学生に対しての事業は多くあるが、未就学児に対して行われているのはボッチャだけではないのか。園児が体を動かすことを楽しむという機会がなくなってしまうのではいかという懸念があるので、事業を継続するのが良いのではないのか。 </p>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>平山課長：市の予算としてはあらためて追加の予定はないが、市内の地域スポーツクラブやスポーツと文化財団が実施する類似の事業もある。各委員のご意見を踏まえ、未就学児へ何ができるかというところは工夫していきたい。</p> <p>安中委員：令和5年度の主な事業で、障がい者スポーツ関連事業でパラアーチェリー体験等と記載があるが、この「等」についてどのようなスポーツを考えているのか。また、個人的にはボッチャや車いすバスケの認知も高まっているので、来年はパリのオリンピック・パラリンピックも開催されることから、目が見えない方のゴールボールやブラインドサッカーなどのスポーツについても、子どもたちの感動体験と合わせて実施できたらと考えている。あと、自分の子どもが市内の学校に通学している。チリの給食の話は今初めて知ったが、子どもたちにとっては良かったのではないと思う。来週、講師として南浦小学校に招かれているが、小学生は3学期にパラリンピックの勉強をまたしているようなので、継続して障がい者スポーツに触れていただき感謝している。</p> <p>平山課長：レガシー方針の中で、障がい者スポーツとして具体的に記載しているのは、ボッチャと車いすバスケ、パラ卓球とパラアーチェリーとなっている。ボッチャについては、障がいの有無にかかわらず、また年齢を問わず誰でもできることから一つポイントになってくると考えている。</p> <p>パラ卓球とパラアーチェリーについては、チリのパラリンピック選手団のうち、チリのパラ卓球とパラアーチェリー選手を三鷹市で受け入れたという経緯がある。卓球については、三鷹市においては国際卓球協会の会長を務めた荻村伊智朗氏が三鷹市の出身ということで、そのようなご縁から三鷹市にゆかりのある卓球ということで記載している。アーチェリーについては、多摩地域の中で専用のアーチェリー場があるのは三鷹市だけなので、このアーチェリー場をより積極的に利用してもらえたらという意図で記載した。</p> <p>また、車いすバスケットについては、このオリンピック・パラリンピックを前に、武蔵野の森総合スポーツプラザで車いすバスケットボールの国際親善大会が開催された時に、イランチームとカナダチームとご縁があり市内の子どもたちとの交流を行った。さらには三鷹市職員に車いすバスケットボール女子日本代表選手もいることから、車いすバスケットボールも三鷹市ゆかりのスポーツになると考えている。</p> <p>これらの理由で4つの種目を記載している。そのため、ご質問いただいた「等」の部分についてはパラ卓球をイメージしているが、その他にも三鷹市ゆかりの選手や指導者が関わりのあるスポーツが出てくれば、そのようなところも含めて市民の方にしっかりと普及する取り組みを行っていきたい。</p> <p>苔口委員：井口小学校より依頼を受け、3月1日に小学3年生を対象にスポーツ推進委員でボッチャ教室を開催する。また、3月5日にはスポーツ推進委員と体育協会と交流会を開催するが、その中でもボッチャを行う予定である。ボッチャについては取り組みやすいということもあるので、引き続き普及させていきたい。そのほか、デフバレーボールの狩野美雪監督もいるので、</p>
------------	---

<p>内 容</p>	<p>令和5年度に間に合わないとしても、令和6年度の事業としてデフに関する内容も取り入れて欲しい。また、せっかく市内に狩野美雪監督がいるので、SUBARU総合スポーツセンターの体育館を練習場所として提供し、それを市民が観覧できるとありがたい。</p> <p>大朝部長：三鷹市ゆかりのアスリートとしてデフバレーボールの狩野美雪監督がいらっしゃるということで、先日市長に表敬訪問いただき、2025年にデフリンピックが東京で開催されることについて情報提供等をいただいたところである。せっかく三鷹にゆかりのある方が日本代表監督ということもあるので、可能であるならばSUBARU総合スポーツセンターメインアリーナなどで練習したり、練習試合を行っているところを市民が観覧できるような機会を作ってもらえるようなことができればと考えている。特にこの東京でデフリンピックが開催されることをきっかけとして、デフバレーボールに注目しつつ、デフリンピック全体に注目が集まる方法も模索していきたいので、また報告・相談をさせていただければと思う。</p> <p>寺田委員：審議会で議題となっているということは、皆様から意見を聞いたらそれを反映させていくことが大事だと思う。何年か前にSUBARU総合スポーツセンターの立ち上げのときも同様だったが、行政の対応が後手後手になっていることが多い。なるべくもっと早く議題に出してくれれば、委員方からも意見などが出てきて、さらに良いものができていくのではと考えるところである。</p> <p>なお、令和5年度の事業としては、乗馬教室もなくなるということなのか。</p> <p>平山課長：乗馬の取り組みに関しては、市の予算としては計上していないが、事業自体は東京大学馬術部と市民団体を支援して実施する。オリンピック・パラリンピックに向けてという段階においては、東京都の補助金メニューがあり、この事業の下支えをしてきたところである。ただ、いずれはなくなっていくので、自立できないかということこれまで相談してきたところである。</p> <p>そのため、市は広報などで周知を行い支援し、東京大学馬術部と市民団体との連携で令和5年度も事業は継続する予定である。ただ、市が実施してきた中では無料開催としてきたところだが、今後は一定の参加料をいただく方向で検討していると聞いているところである。</p> <p>寺田委員：応募の人数からすると、それは可能なのかなと感じている。一方でインクルーシブやダイバーシティを推進していくためには、市が中心となってやっていかなくてはいけない部分もあると思う。なかなか所属がない方が地域にいらっしゃるし、身体的だけではなく精神面など様々な特性を持っている方々がいるので、そのような方々にとって乗馬や馬と触れ合うことなどは効果的という論文もある。そういった意味での乗馬の切り口・方向性で、市はまずは援助して、今回のように自立していけば良い。このように違った切り口での馬・乗馬の活用方法も考えられるのではないかと思います。</p> <p>助友会長：市の事業だといつも参加する人が特定の人になり、そのサービスから取りこぼされてしまう人たちがいるというところで、そこに対してあえて市が強く介入していくというのは重要だと感じた。</p>
------------	---

<p>内 容</p>	<p>鈴木委員：令和5年度の「心と体の健康都市づくりの推進」に関して一つの意見だが、この健康づくりと運動を組み合わせていくというのは、恐らく令和5年度の三鷹市の政策の目玉の一つになると思う。その中で、日本女子体育大学との連携による「健康・体力相談と運動に基づく健康効果に関する講座を組み合わせた健康増進プログラムの実施と、プログラムに基づく運動効果の検証」というのは、これまでで初めての事業ではないか。令和4年度も実施していたのか。</p> <p>平山課長：日本女子体育大学とはこれまで様々な形で連携を行っているが、令和5年度のこの事業は初めての取り組みになる。やはり健康・体力相談といったところでは、フレイル関連などについて相談される市民の方もいるので、そこをどういう形で体力の維持・向上や体質の改善ができるのかなど、アドバイスをもらいながら協力して実施していきたい。この事業の効果をしっかりと検証して公表することで、より多くの市民の皆様健康という部分を意識してもらえたらと考えている。</p> <p>鈴木委員：健康増進の講座とプログラムの実施にあたっては、それを受けた人と受けていない人をグループ分けして検証していくスタイルになると思うが、そこに三鷹で独自に行っているタッタカくんのアプリを使用するグループを介入させてほしい。健康増進プログラムは受講していないが、タッタカくんアプリを活用しているグループを入れるとどのような結果になるのか検証してほしい。</p> <p>相原委員：私も似たような研究を行っているので、健康相談事業については今後どのような方向に進んでいくかも含めて興味深く思っている。健康・体力相談やオーダーメイドの運動指導を行いつつ、講座もやりつつアウトカムも出すとうことで、これが本当に実現できれば理想的な事業になる。ただ、利用者数延べ600人という目標人数の達成は非常に大変な作業になると考えられるため、進捗状況については今後も報告してほしい。また、幅広く市民の方にタッタカくんアプリを根付かせるという意味では、例えば体力相談会の中で使ってもらう人を定めて利用者を増やしてもらったり、健診データと紐づけたりしながら、疾病予防の効果などを検証して世に出してほしい。</p> <p>川瀬委員：イベントの募集定員数に対して応募数が少ないのが見受けられる。募集方法が広報によるものというのが多いと思うが、せっかくなので抽選になるくらい応募数があるように周知に力を入れてほしい。もう一つは、イベントに参加された方はどうだったのかなど、アンケートなどで参加者の声を拾っていただいて、次につなげてほしい。</p> <p>高柳委員：子どもの時の感動体験が大きくなってから重要だと感じている。その中で、バレーボールなどこれだけたくさんの体験会があるのは素晴らしいと思う。その一方で、参加者を募集するのはなかなか難しいということも感じている。</p> <p>屋敷委員：私たち東京都障害者スポーツ協会では、障がい者スポーツに係る様々な事業を展開しているが、集客という点では非常に難しい面もある。市区町村が実施する事業については、狙っているターゲット層に届いていないと</p>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>という意見もいただく。やはりターゲットをしっかりとリサーチして、ピンポイントでつなぐ必要がある。杉並区がスポーツ広場で障がいのある方たちのためのユニバーサルタイムを実施している。そこに当事者同士の方が予定以上に参加されたという実績があった。来年度以降は継続事業にしていくということで他の自治体も注目していたが、当事者同士のつながり・口コミで広がっていくのが集客にとって重要ということが分かっていたので、早い段階からターゲットの方々に企画の段階から参画してもらい、そこに参画していた方々が広めてくれて集客につながった。そこで、ターゲットが子どもであれば、企画の段階から参加してもらうなどするともっと広がっていくのかなと感じている。また、イベントの申し込み期間・周知期間が短いことが多いので、親のスケジュールがうまくいかないこともあるので、その辺も集客を考えるうえでは重要であると感じる。</p> <p>細川委員：少し視点が違うかもしれないが、東京都の事業でインクルーシブ遊具というものを府中の森公園に整備したが、障がいをお持ちの方もそうでない方も利用できるというのが口コミで広がり、利用者が多くなっている。SNSとか口コミとか横のつながりをどのように広げてくかが集客につながっていくのではないかと。</p> <p>岸川委員：私はポッチャみたかカップに参加したが、その時に生涯学習センターで別のイベントがあり、自分のチームがあまり人数を出すことができなかった。トライアスロン体験も8月14日のお盆の時期の開催になっており、子ども含めて帰省している影響もあり参加者が少なかったのではないかと。集客力をあげるためには開催時期も考えてほしい。</p> <p>助友会長：スポーツ推進審議会では、スポーツ実施率を向上させるということが最終的な目標としてある。そうすると、スポーツ実施率の低い障がいをお持ちの方に何かしらのものがあればよいと考え、パラスポーツについての取り組みはたくさんあるけれども、そこに当事者がどのくらい参加したかというのは非常に重要なポイントになると考える。もう一つは、次年度の健康都市づくりの推進と関連するかもしれないが、障がい者の次にスポーツ実施率の低い層として、30～40歳代くらいの育児中の女性やオフィスワーカーの男性が挙げられるので、そこにアプローチするために健康都市づくりの事業を活用するのが良いと考える。</p> <p>五味川委員：井口小学校でもチリの給食を実施して実際に食べたが、チリを身近に感じることはできた。また、学校のレガシー事業ということで、オリンピック・パラリンピック開催前は予算もありオリンピック・パラリンピックの方がたくさん学校に来てくれた。今は予算の範囲内で、レガシー事業としてやれることを少しずつでも取り組んでいる。また、障がい者教育を行っており、車いすの方に来ていただいて車いす体験や苦労話を聞いたりする勉強などを行っている。この間、講師の方を招いて体育館で車いす体験を実施したところ、体育館にスロープがないため車いすが入りづらかったということがあった。そのこともあり、可動式のスロープを新たに購入したが、その後展覧会で車いすの方が来たときなどにも活用することができた。先ほど予算の話もあったが、できることをできる範囲でやっていきたい。</p>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>今回、審議会に参加させていただいて皆様とつながりができたので、このつながりを今後も大切にしていきたい。</p> <p>4 報告</p> <p>(1) 元気創造プラザ等におけるキャッシュレス決済、「スポーツ・生涯学習個人利用市民カード」の運用について</p> <p>ア 元気創造プラザ等におけるキャッシュレス決済 SUBARU総合スポーツセンター等の券売機にて利用できる電子マネー（交通系 IC カード）決済の取扱いを、10月25日（火曜日）から開始した。</p> <p>イ 「スポーツ・生涯学習個人利用市民カード」の運用 2月28日午後5時から「スポーツ・生涯学習個人利用市民カード」の運用をスタートする。新しく発行する IC カードは現金チャージや回数券機能を持ち、施設の使用料や講座受講料の決済に利用できる。また、カードをタッチするだけで施設への入退場も可能となっている。</p> <p>(2) 「タッタカくん！ウオーク&ラン」アプリとみたか地域ポイントとの連携について 令和4年12月に開始したみたか地域ポイントとタッタカくん！ウオーク&ランの連携がスタートした。タッタカくん！ウオーク&ランのイベントや歩こう会への参加でみたか地域ポイントが付与される。</p> <p>(3) 第31回三鷹市民駅伝大会の開催状況について 令和4年11月27日に第31回三鷹市民駅伝大会を開催した。 当日参加チーム数：125チーム（完走125チーム） 招待チーム：姉妹市町矢吹町より4チーム、チリ大使館より1チーム</p> <p>5 今後の予定</p> <p>(1) 行政報告（事業予定）</p> <p>1月28日 東京都市町村ボッチャ大会 2月8日 FC東京・地域活性化包括連携協定式 2月19日 小学生ソフトバレーボール交流大会 2月22日 トップアスリートによるバレーボール教室（経験者向け）計3回～3月15日 2月23日 カラダに効果的なウオーキング体験教室</p> <p>(2) 審議会のスケジュール 今回は、令和5年4月21日（金）午後3時30分から開催する。</p> <p>6 閉会あいさつ（寺田副会長）</p>
------------	--